Environmental Report
リオン環境レポート
2014

地球環境の保全は、人類共通の重要課題である
この“かけがえのない地球”を健全に維持することは、
我々一人ひとりの責務である
当社は、すべての企業活動を通して、
常に環境保全に配慮し人に、社会に、地球に、優しい製品及び
サービスを提供することにより
国民の健康で文化的な生活の確保に寄与すると共に、
人類の福祉に貢献する

対象期間：2013年度（2013年4月1日～2014 年3月31日）当該年度以外の内容も一部掲載しています

Environmental plan
環境方針

当社グループの目指す姿は、「社会の発展と快適な生活の実現及び地球環境問題の改善に貢献し、
社会から常に信頼を得て発展し続ける企業グループ」となることであり、
そのためにも環境管理活動は、経営の最重要課題の一つとして位置づけられるものである。

1. 環境負荷の低減
環境負荷の少ない製品の開発を推進し、部品調達から生産、販売、サービス、廃棄に至る全ての事業活動において、環境影響を適切に認識、評価し、社内外の環境負荷を低減する。

2. 環境管理活動の充実・強化
定量化された環境目的、環境目標を制定し、施策、責任、期限を明確にした実施計画を策定し実行する。
また、これらを適宜見直し、環境管理活動を継続的に改善する。

3. 法規制の順守
環境関連法規制及び当社が同意するその他の要求事項を順守する。

4. 地球温暖化の防止
廃棄物の再利用 (reuse) 、廃棄物排出の抑制 (reduce) 、廃棄物の再資源化 (recycle) に取り組み、資源を有効に利用し、CO_2排出量を削減する。

5. 地域の環境保全
地域の環境活動への参加、近隣清掃、構内樹木の剪定等、緑の資産を良好な状態で維持し、地域社会を含めた環境保全に尽くす。

環境方針は当社で働く全ての人々に周知徹底すると共に、グループ会社及び取引先、外部利害関係者に対しても公開し、当社が行う環境管理活動に対する協力をお願いする。

Posture to environment
環境に対する姿勢

環境管理活動におけるこれまでの経過

1999年　7月 23日	›	ISO14001の認証取得（JQA-EM0488）
2002年　9月	›	ホームページ上に環境報告書を開示
2004年 12月	›	外部審査機関を日本品質機構（JQA）から テュフズードマネジメントサービスGmbH（TÜV）に移行
2006年　5月	›	グリーン調達システムの構築を開始
2006年 10月	›	グリーン調達調査を開始
2007年　6月	›	外部審査機関TÜVによるISO14001:2004の適用範囲を 国内全事業所に拡大し更新審査を受審、認証取得
2009年　7月	›	リオングリーン製品の販売開始（振動分析計VA-12）

リオングリーン製品ロゴマーク

「みどりの葉」は自然環境を表現します。その自然環境を守るように囲んだ「みどりの輪」は、
有害物質削減を続けてゆく活動の「輪」であり、有害物質「ゼロ」への取り組みを表現しています。
当社基準である「グリーン調達ガイドライン」に則り、
有害化学物質を含有しない製品にリオングリーン製品ロゴマークを表示しています。

詳しくはこちら ›› http://www.rion.co.jp/env/index.html

環境マネジメントへの取り組み

リオンでは、環境マネジメントへの取り組みとして、国際規格であるISO14001の2004年版の認証を
テュフズードマネジメントサービスGmbHより取得しています。

詳しくはこちら ›› http://www.rion.co.jp/env/file/ISO14001_J.pdf

ECO
GREEN

リオングリーン製品

リオン製品について詳しくはこちら

リオネット補聴器
>> http://www.rion.co.jp/asp/product/communication/

医用検査機器
>> http://www.rion.co.jp/asp/product/me/me_top.html

音響・振動計測器
>> http://www.rion.co.jp/asp/product/sound/

微粒子計測器
>> http://www.rion.co.jp/asp/product/particle/

Influence on the environment active conduct of business
事業活動と環境への影響

様々な資源を投入して製品や部品を製造し、
エネルギーや水等の地球資源を活用して
事業活動を行っています。
それぞれの工程における環境負荷低減への
積極的な取り組みを行うように努めています。

INPUT

エネルギー

- 電力 **2,948千**kWh
- 都市ガス **58千**Nm³

水

- 水道 **30,054** m³

化学物質

- PRTR対象化学物質 **165.7** kg

製　造

補聴器
医用検査機器
音響振動計測器
微粒子計測器

研究開発

設　計

資材調達

販　売

サービス

OUTPUT

大気への排出

- 二酸化炭素 **1,676** t-CO_2

水域への排出

- 水道 **24,042**m³

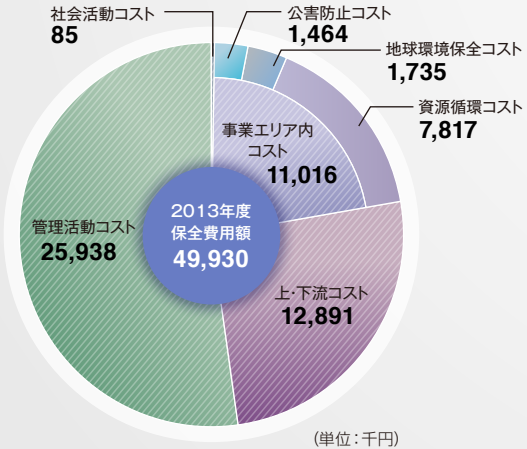
廃棄物

- 再資源化 **50** t

Environmental accounting 環境会計

環境会計の手法は、環境省の環境会計ガイドラインに準拠した環境会計を2003年度から実施し、環境保全にかかるコストとその効果を把握するための取り組みを進めています。

環境会計の導入によって、環境保全活動を活発化し、継続的な環境対策を行い、その効果を向上させること、さらに情報の開示により、環境保全活動の透明性を高め、環境に対する姿勢を明確にすることを目指しています。



(単位：千円)

対象期間：2013年4月1日～2014年3月31日
集計範囲 本社工場
参考：「環境会計ガイドライン2005年度版」

1. 環境保全コスト

(単位：千円)

分類		主な取り組みの内容	設備投資額		保全費用額	
			2012年度	2013年度	2012年度	2013年度
事業エリア内コスト			0	13,092	9,458	(11,016)
	公害防止コスト	大気、水質、騒音など	(0)	(0)	(1,535)	(1,464)
	地球環境保全コスト	温暖化防止、オゾン層保護など	(0)	(13,092)	(1,966)	(1,735)
	資源循環コスト	資源の有効活用、廃棄物の減量化など	(0)	(0)	(5,957)	(7,817)
上・下流コスト		グリーン調達、リサイクルなど	0	0	12,911	12,891
管理活動コスト		環境教育など	0	0	25,196	25,938
研究開発コスト		環境調和型製品開発など	0	0	0	0
社会活動コスト		緑化、情報開示など	0	0	244	85
環境損傷対応コスト		土壌汚染修復など	0	0	0	0
合計			0	13,092	47,809	49,930

2. 環境保全効果

(単位：千円)

分類	指標(単位)	2012年度	2013年度	前年度比増減
事業活動に投入する資源に関する効果	電力使用量(Mwh)	2,955	2,948	△7
	都市ガス使用量(m^3)	57,608	58,186	578
	上水使用量(m^3)	30,845	30,054	△791
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	電力使用量(t-CO_2)	1,552	1,547	△5
	都市ガス使用量(t-CO_2)	127	129	2

(注)t-CO_2の換算において、電力は電気事業連合会公表の換算係数、都市ガスは環境省「二酸化炭素排出量調査報告書」の換算係数を使用

3. 環境保全対策に伴う経済効果　－実質的効果－

(単位：千円)

内容		2012年度	2013年度	前年度比	経済効果
省エネルギーによるエネルギー費	電気使用料	57,032	63,622	6,590	
	ガス使用料	5,348	6,083	735	△7,163
	水道使用料	22,881	22,719	△161	
省資源又はリサイクルに伴う廃棄物処理費	廃棄物処理費	2,419	2,840	421	△421
				合計	△7,584

(注)実質的効果のみで、みなし効果は含まず。

編集方針

本レポートは、リオン株式会社が重要と考えている事項やその推進方法、
活動事例などをお伝えすることを目的として作成しています。

報告の対象範囲

リオン株式会社の活動について取り上げ、ご紹介しています。

報告の対象期間

2013年度（2013年4月1日～2014年3月31日）当該年度以外の内容も一部掲載しています。

内容はWEBのみの公開で、冊子の発行は行っておりません。